

Ⅱ. 令和3年度高校生模擬議会における 政策提案等

青森県議会議長からの総評

青森県議会議長
三橋 一三



青森北高等学校、六ヶ所高等学校、青森中央高等学校の皆さんには、コロナ禍で制約が多い中、様々な資料を調べ、話し合いを重ねて、政策提案をまとめていただきありがとうございます。

本会議場で模擬議会を開催し、直接皆さんの熱い発表を聞いて、議論を深めることができなかったことは大変残念ですが、どの提案も大変興味深く、私達では思いつかないような高校生らしい視点を持った斬新な提案が数多くありました。

青森北高等学校の皆さんからは、「青森県の人口減少問題」をテーマに、特に若者の県外流出に着目して提案をいただきました。人口減少問題を「AOMORI 2045問題」と名付け、すぐそこに迫る危機として、高校生も当事者として取り組むことの大切さを訴える内容は非常に重要な視点であると思います。また、調査・検討したことを8つの政策提言と4つのキーワードとしてよく整理できていました。

六ヶ所高等学校の皆さんからは、「健康のために食生活を改善し、健康寿命を伸ばそう！」をテーマに提案をいただきました。いかに若い頃から健康食や運動の習慣を身につけるか、年齢を重ねてもその習慣を続けられるかが大事であり、「健康食の日」をつくるという提案は、県が行っている減塩の「だし活」と野菜摂取の「だす活」等と組み合わせることで、非常に有効な取組となる可能性があります。

青森中央高等学校の皆さんからは、「青森県の人口問題～青森県の魅力を伝えよう～」をテーマに提案をいただきました。ご当地イベント等と連動したSNSの活用策は、皆さんにとって一番身近なツールであるからこそ提案できたものだと思います。英語圏やアジア圏に向けた#（ハッシュタグ）の活用は、まだまだ伸びしろがありそうな分野であり、皆さんのアイデアでどんどん「バズらせる」ことができるかもしれません。

今回の皆さんからの政策提案については、県議会において、しっかりと受け止めさせていただき、今後の県政発展の一つの材料として、参考とさせていただきたいと思います。

将来の青森県を担うのは、皆さんをはじめとする若い方々です。今後も、政治や選挙に関心を持ち続けていただき、全ての人にとってふるさと青森県が大好きな誇れる県となるように、一緒に考えて行きましょう。

青森県議会広報図書委員長からの挨拶

青森県議会広報図書委員会
委員長 工藤 義春



私ども、県議会広報図書委員会では、県民に開かれた議会を実現するため、議会の広報・広聴などについて協議・調整を行っており、毎年度、県議会を代表して、高校生模擬議会に参加しています。

この度、2月9日に本会議場での開催を予定していた令和3年度「高校生模擬議会」については新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となり、大変残念に思っています。

これまで準備してきた先生方や生徒の皆さんが、政策提案を作成し、プレゼンするのを非常に楽しみにしていただけに、各高等学校もそうだと思いますが、我々委員も残念でなりません。

さて、皆さんからの政策提案資料を拝見させていただきましたが、非常に良く研究、勉強されていて、青森県を思う強い気持ちが伝わってきました。

そこで、委員から各校の御提案に対して、コメントを出させていただいたところです。本冊子に掲載されていますので、御覧いただければ幸いです。

皆様からいただいた御提案については、私たち委員も、議員として県政に活かしていきたいと考えます。

また、広報図書委員会の主な活動の1つを紹介しますと、県民に議会の活動内容を広く御理解いただくため、「あおり県議会だより」を発行しています。

この「あおり県議会だより」は、各御家庭のほか、高校にも配布していますので、皆様におかれましても、是非御覧いただき、県議会の活動に対して、より一層関心を持っていただくことをお願いいたします。

今回皆さんが取り組んだ研究政策は、必ずやこれからの人生の糧となるに違いありません。これからも青森県愛を一層育んでくれますようお願い申し上げます。

終わりに、皆様方の益々の御活躍と御多幸を御祈念申し上げあいさついたします。